

## 子育てを通じて気づいた「公共スペースでの過ごし方」と「図書館へのお願い」

石道 尚子

### 1. はじめに

司書として、これまでに学校図書館、大学図書館、専門図書館に勤務しましたが、出産を機に退職し、現在は2歳の女の子の子育てに専念しています。

### 2. 子どもとのお出かけは社会の優しさに支えられています

ありがたいことに、ある程度の都市部に住んでいるせいか、妊娠中を含め、交通機関や公共施設で特に苦労したことはありません。優先エレベータや電車のベビーカースペースなどを利用して、お出かけを楽しんでいます。

区役所や図書館などの公共施設は、授乳室やおむつ替え台を設置したトイレなどがきちんと準備されています。一方で、民間施設では設備が十分でない場所もたくさんあります。その中で、意外に使えるのが百貨店です。子ども用品のフロアがあるので、優先エレベータやトイレや授乳室だけでなく、離乳食を食べられる場所が確保されています。また、レストランフロアでも、ファミリー層に対する店員さんの配慮が行き届いています。これまでは敷居の高い場所のように感じていた百貨店ですが、実際に利用してみると、小さい子ども連れにも大変優しい施設だと気づきました。

各施設で移動や授乳、おむつ替えについては、年々改善されつつありますが、外出先でも子どもと楽しく食事ができれば、お出かけのハードルが下がるのではないかと思います。

### 3. 補修講座は、図書館のキラーコンテンツ!?

ママ友は「司書だった私」を知りません。その中で聞こえてくるのは、図書館への敷居の高さで、非常に残念だと思っています。「静かにしなければならぬ場所」「もし本を壊したら…」と思い、なかなか図書館に行けない人が多いようです。

よく利用する地元の図書館は、一般の閲覧席のすぐそばに、乳幼児用の低い書架があります。その前にはマットが敷いてあり、靴を脱いでゆったり過ごせる場所です。しかし実際は、読み聞かせをする声、それを喜ぶ子どもの声が周囲に筒抜けになってしまい、どうしても利用に気が引けてしまいます。レイアウトは変えられないとしても、例えば、時間帯によって「声を出してもOK。周りもご理解お願いします」といった働きかけがあればいいなと思います。

小さい子どもが誤って本を壊してしまうのは、やむを得ない部分があります。また、子どもが大切にしている思い出深い本であれば、きちんと直して持っていたいと思うものです。ママ友に「図書館で働いていたよ」と話すと、「壊れた本をどうすればよいか?」と聞かれることが多いです。そこで、図書館は、子育て世代に対し資料の補修方法をもっとアピールしてもよいのではないのでしょうか。例えば、利用案内や返却期限票に「ページが破れた場合は自己判断で直さず、そのままの状態でも返却してほしい」等を印字すれば、誤ってセロハンテープで補修されてしまう本も減ると思います。ほかにも、自分で本の補修ができるようになる講座を行ったり、キハラブックバディ(<https://store.shopping.yahoo.co.jp/bookbuddy/>)など、個人で購入できる補修製品があることをお知らせしてくれると嬉しいなと思います。

### 4. おわりに

働く場所としての公共図書館には、これまでご縁がありませんでしたが、これを機に利用者として、どんどん活用していきたいと思いました。母の図書館好きが娘の成長にどう影響を与えていくのかも、楽しみでなりません。

(いしどう なおこ)